

# 大丈夫、

## 一歩ずつ

### 愛媛のスクールソーシャルワーカー

経済的格差の広がりが児童・生徒に及ぼす影響や、スクールソーシャルワーカーの展望について、子ども・家庭支援に詳しい松山東雲女子大の友川礼准教授（社会福祉学）に聞いた。（聞き手・二宮京太郎）

―スクールソーシャルワーカーの重要性とは。  
学校は子どもの発達権・学習権を保障する場。スクールソーシャルワーカーは学校や家庭、地域の生活に課題があるために、学校生活を送ることが難しい子どもと家族を支援対象としている。課題の生じる背景の一つが生活の困窮。バブルが崩壊した1990年代以降、経済的格差が広がり、子ども時代の貧困から成人後も抜け出せない「連鎖」の実態がある。

1日3食まともに食べられないなど、生きる上で必要最低限の生活水準が満たされていない子どもは少なからずいる。終戦後のような社会全体が貧困の中にある時代と違って、不足に対するコンプレックスがない。

例えば友人は皆、ゲーム機や携帯電話を持っている。旅行に行くと多様な経験をしている。自分はゲーム機がなく一緒に遊べない。旅行の経験もない。携帯電話もないので会話についていけない。

### ⑦ 友川礼准教授に聞く

## 早い段階で課題発見を専門人材の配置不可欠

「社会福祉士」「精神保健福祉士」の資格なし▽1日4時間、年間90日」の非常勤となっており。どのような施策を期待しているか。国は全市町村への配置を目標に掲げているが、進んでいない。国・県・市町村が協働し、社会保障政策の最優先課題としてソーシャルワーカーの配置は1〜2人▽

レックスや葛藤が奮起につながらず、人や社会とのつながりを減らす。さまざまなきっかけから学校に行けなくなることもある。このような状況を家族の力だけで抜くことは難しい。

―県内の市町教委の多くで、スクールソーシャルワーカーの配置は1〜2人▽

「社会福祉士」「精神保健福祉士」の資格なし▽1日4時間、年間90日」の非常勤となっており。どのような施策を期待しているか。国は全市町村への配置を目標に掲げているが、進んでいない。国・県・市町村が協働し、社会保障政策の最優先課題としてソーシャルワーカーの配置は1〜2人▽

レックスや葛藤が奮起につながらず、人や社会とのつながりを減らす。さまざまなきっかけから学校に行けなくなることもある。このような状況を家族の力だけで抜くことは難しい。

―県内の市町教委の多くで、スクールソーシャルワーカーの配置は1〜2人▽



不登校の予防に向けて「スクリーニングの導入が有効だ」と語る友川礼准教授

ともかわ・あや 1975年広島県生まれ。日本社会事業大学院社会福祉学専攻修士前期課程社会福祉学専攻修士。日本子ども家庭総合研究所研究員などを経て2020年から現職。県教育委員会のスクールソーシャルワーカー・スーパーバイザーや不登校児童生徒等支援連絡協議会委員などを務める。

―市町村が実施する乳幼児健診では、全ての子どもを対象にスクリーニングを行い、家族支援につなげている。義務教育の子どもが全員入学する学校でもスクリーニングを行えば、不登校、虐待、いじめの予防、経済的課題の発見に有効だろう。問題が深刻化して改善に入るのはなく、早い段階でSOSをキャッチできれば、打つ手もたくさんある。

―おわり